

我が意を得た領域！

ある団体が企画した「生と死を考える」講座：「ホスピスボランティアをめざして」で講話する機会を得た。

年2回程講座が企画され、一講座が4回シリーズで開催されているようである。つまり、一講座の受講には4日通い、しかも受講料がかかるとか。それにも拘わらず、熱心に20名近い方が受講していた。女子高生も一人いたし、他県からの聴講生もいたのには、感服！

私は、その1日を「大切なコミュニケーション」と題して、たっぷり3時間いただけただけに、ゆっくりと色々なことを話させていただいた。職場（病院）では、重症児、筋ジストロフィーの療育に携わり、また、ボランティアの受け入れ・育成に係わる部署勤務だったし、更に、ライフワークが「コミュニケーション障害」であるだけに、お陰で、「生と死を考える」、「ホスピスボランティアをめざして」、「大切なコミュニケーション」に触れる話には事欠かなく、我が意を得た領域であり、3時間も苦にならずエピソードに触れながら話した。

しかし最初は、受講料を納めての一般市民の受講生を前にして話すのは初めてなので、どういう反応かなと思いながら話させていただいたが、いつの間にかマイペースで話すことができ、ホッとした。

終了後、「自分のヘルパ - 仲間に聞かせたい話だし、ヘルパ - 養成機関の何を考えているのかさっぱり解らない職員に、ぜひ聞いてもらいたい！」、「久しぶりに『寄り添う』という美しい響きの日本語を聞いた。」等の感想を聞かせて下さる方々もいました。また、「今日は、物事の捉え方、その他今の仕事にも役立つヒントも得たと実感しております。ありがとうございます。」と、後刻メールを下さった方もいました。聴講された方々を、阿部ワールド(?)に招待できたようである。

それにしても、「選挙に立って、福祉を変えて！」と、未だ経験したことのない声を掛けてきた方がいたのには、ビックリ！「雑学の発信で十分！」とお応えした。世の中、色々な人がいるものですね。

(2003年11月01日記)